

製品名: p62/SQSTM1 (12N5) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe15658**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:20-1:100,ICC/IF 1:20-1:50,FC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	SQSTM1
別名	OSIL; Oxidative stress induced like; p60; p62; p62B; Paget disease of bone 3;PDB 3; PDB3;
遺伝子 ID	8878.0
SwissProt ID	Q13501
免疫原	ヒト SQSTM1/p62 の組み換えタンパク質

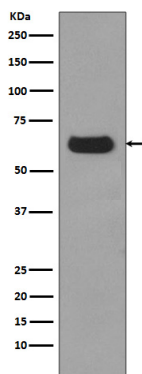
背景

分解対象となるカーゴと MAP1 LC3 ファミリーのオートファジー修飾因子の両方と直接相互作用するオートファジー受容体。ALIS (アグレソーム様誘導構造) と呼ばれるポリユビキチン含有小体の形成とオートファジー分解の両方に必要であり、ALIS をオートファジー機構に連結する。ミッドボディリングの分解に関与する。TNF- α 、神経成長因子 (NGF)、インターロイキン-1 による NFKB1 の活性化を制御する可能性がある。選択的マクロオートファジー (アグレファジー) に必要なオートファジー受容体。ポリユビキチン化されたカーゴとオートファゴソーム間の橋渡しとして機能する。分解対象となるカーゴと MAP1 LC3 ファミリーのオートファジー修飾因子の両方と直接相互作用する (PubMed:16286508、PubMed:20168092、PubMed:24128730、PubMed:28404643、PubMed:22622177)。WDFY3 と共に、細胞質ユビキチン含有封入体 (p62 ボディ、ALIS/アグレソーム様誘導構造) の形成とオートファジー分解に関与する。WDFY3 と共に、ユビキチン化タンパク質を核内の PML ボディにリクルートするために必要である (PubMed:24128730、PubMed:20168092)。TNF- α 、神経成長因子 (NGF)、およびインターロイキン-1 による NFKB1 の活性化を制御する可能性がある。筋細胞におけるタイチン/TTN 下流シグナル伝達において役割を果たす可能性がある。ユビキチン化を介してシグナル伝達カスケードを制御する可能性がある。TRAF6 と CYLD (類似性による) 間の相互作用を媒介するアダプター。細胞分化、アポトーシス、免疫応答、および K(+)チャネルの制御に関与している可能性がある。核周縁雲に小胞を保持することでエンドソーム組織化に関与する: RNF26 によるユビキチン化後、特定の小胞関連アダプターを誘引し、核周縁領域で同族小胞を拘束する分子橋を形成し、効率的な貨物輸送のためのエンドソーム経路を構成する (PubMed:27368102)。[Lys-63] 結合ユビキチン化 STING1 のオートファゴソームへの再局在を促進する (PubMed:29496741)。KEAP1 との相互作用を介して NFE2L2/NRF2 経路の活性化因子として作用します。相互作用により BCR(KEAP1) 複合体が不活性化され、NFE2L2/NRF2 の核内蓄積が促進され、続いて細胞保護遺伝子の発現が促進されます (PubMed:20452972、PubMed:28380357)。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



SKBR-3 細胞溶解物中の p62/SQSTM1 発現のウェスタン プロット解析。